

要はないのだ。彼らには、戦争の法則が理解できていない。その結果、帝国主義を利用される事になる。日米防衛協力小委員会の目的は「日米安保条約及びその関連取決の目的を効果的に達成する」ために「緊急時々における自衛隊と米軍との間の整合のとれた共同対処行動を確保するために取るべき措置に関する指針を含め、日米間の協力のあり方に関する研究、協議をおこなう」ことである。一言でいえば、朝鮮侵略反革命戦争を「整合のとれた共同対処行動」として遂行するための日米軍の共同作戦指令部作りが目的なのだ。日帝は、かかる中で、防衛白書の「基盤的防衛力」構想に基づき、ミグ25号事件を利用して、「国民の防衛意識の高揚」を図る、と同時に、「基地対策、防衛産業の育成、必要物資の備蓄及び民間救護組織の検討を行うとともに、建設・運輸、通信、科学技術、教育等について関係諸法令を整備し、これらの行政に国防上の配慮を加えること」で、一気に一億総動員、戦時体制を構築し、自衛隊の増強と合法化を目指している。

かくて、「朝鮮革命と結合し、日米帝の朝鮮侵略反革命戦争を日本革命に転化せよ!」という総路戦に基いた、在日米軍、自衛隊に対する反軍、反基地斗争はきわめて大きな位地を占めてくる。我々は、反軍、反基地斗争を安保粉碎と結合した革命的宣伝、扇動として斗争一方、在日米軍、自衛隊内における朝鮮侵略反革命粉碎のたたかいを組織し、革命的兵士の特殊グループの創建に取りかからねばならない。

天皇を頂点とする軍隊、警察、官僚機構を革命戦争で粉碎し「安保粉碎・日帝打倒・米帝追放・プロ独の社会主义革命」の勝利を!

自民党は、今回の衆議院選挙で大敗北した。保守系無所属を含めやっと過半数を超えたに止まつた。他方、「日共」宮本一派も、同様に大敗し、19議席に後退した。これらは、プロレタリア階級がこれまで通りの生活をのぞまなくなっている、と同時に、ブルジョア階級が「搾取者がこれまでのように生活し支配できなく」なったこととの具体的なあらわれである。「55年」体制は加速度的に崩壊にむかっている。革命的情勢は端的に始まり、成熟しつつあるのだ。17日、三木は選挙敗北の責任をとって辞任し、代って、福田が首相と党総裁に就任した。自民党が福田を満場一致で党総裁に選出したことは、自民党内抗争に終止符を打つたことを意味しない。より大規模な、決定的な党内抗争の幕開きなのである。福田内閣の成立の意味は、三木の下でゆるんだ財界と官僚の結合を天皇制ファシズムに合致すべく再編することにある。ゆえに我々は、福田内閣に何も期待しない。「毛沢東思想派」の諸君は、親ソ反中の三木から、福田に変わったことに希望を抱き、外交政策を親中反ソにしようと要求している。これは、日帝が共同朝鮮侵略反革命戦争に乗り出さざるを得ないこと、更に、そのため、プロレタリア階級を徹底弾圧し、搾取と抑圧、収奪を強めざるを得ないこと、そして、三木も、福田も、

第三次ブンドを結成せよ!

この点では完全に一致していること、相違は戦争の時期と「城内平和」体制の内実と、外交問題においてのみ存在すること、こうした事を全く理解していない。忘れ去っている。その結果、プロレタリア階級独裁を否定し、ブルジョア階級と同盟を説く、投降主義、修正主義に陥っている。ブルジョア階級は、福田内閣の誕生を観迎しつつも、他方きわめてひややかである。何故か、ブルジョア階級は体制的危機突破、ブルジョア階級独裁の延命の道を、統治形態の反動的転換すなわち、「象徴」天皇制を内在化した特殊な議会制民主主義から天皇制を政治の前面におしだし、これに軍隊、警察、官僚機構を結合した天皇制ファシズムへの転換に求めているからである。我々は、はつきりと言わねばならない。ブルジョア議会内の様々な政権争いに目を奪われてはならない。選挙総括の核心は、天皇制ファシズムへの加速度的傾斜に対し、プロ独、社会主義革命を対置しきることである。我々は、プロレタリア階級独裁を目指す武装斗争に着手せねばならない。武装して斗う非合法党を克ちとら

ねばならない。対置しきることはそういうことである。我々は、天皇を頂点とする軍隊、警察、官僚機構に破壊力を集中し、粉碎せねばならない。11/10斗争が突き出した如く、天皇、天皇制に対するプロレタリア階級労働大衆の怒りは根深く、力強い。ブルジョア新警察、官僚機構に、破壊力を集中せよ。ニンは『国家と革命』の中、プロレタリア革命は「国家機構を粉碎し、打ちくだかねばならない」と、明確に提起している。我々は、この提起に応えねばならないのだ。プロレタリア革命は、私的所有をブルジョア階級の共有制にかえ、社会主義が資本主義にとって変わる革命であり、私的所有のうえで、発展し「完全なもの」になり、ブルジョア階級の道具である国家機構を、プロレタリア階級がブルジョア階級およびいつさいの搾取階級にたいし独裁を行う、と同時に、プロレタリア階級独裁下の継続革命、社会主義建設をおしすすめる道具となる。社会帝国主義集団は、「マルクス主義学説のなかで主要なものは、根本的なこの結論、命題を忘れ、「ブルジョアジーの従僕」になり下がっている。一方、革命的情勢が端的に始まり拡大、発展する中で、プロ独、社会主義革命が決定的問題になり、日米帝の朝鮮侵略反革命戦争と天皇制ファシズムに「国内戦」を対置しきらねばならないときに、かかる歴史的任務から逃亡し、カウッキー主義に転落つある部分も存在する。それは「自民党打倒」を叫ぶ諸君だ。我々は再度批判する。このスローガンの誤りの第一は、政府が国家の一部であることを否定し、不正に政府の役割を過大評価していること、その結果、国家の実体を正しく把握できず、マルクス主義の国家学説のなかで、「主要なもの、根本的なもの」今日的なものである「国家機構を粉碎し、うちくだかなければならぬ」という命題と曖昧にしていることだ。誤りの第二は、ブルジョア国家機構を粉碎し、新たな、プロレタリア的国家機構に代えることを、天皇を頂点とする軍隊、警察、官僚機構を粉碎する段階へと押し上げねばならない。「革命の中心任務と徹底的に対決できず、客観的に会主義、修正主義と決別するには、プロ独、社会主義の觀点、立場を奪取することであり、戦争で問題を解決することである」以上、我々は、革命戦争によって、執行機關を粉碎せねばならず、これぬるに、「安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独、社会主義革命」の勝利はありえない。天皇制ファシズムを革命戦争で打ち破れ。

下層Ⅱ被搾取者が「これまでどうり生活し支配できなく」なったことは、天皇を頂点とする軍隊、警察、官僚機構を粉碎する段階へと押し上げねばならない。「革命の中心任務と最高形態は、武力で政権を奪取することであり、戦争で問題を解決することである」以上、我々は、革命戦争によって、執行機關を粉碎せねばならず、これぬるに、「安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独、社会主義革命」の勝利はありえない。天皇制ファシズムを革命戦争で打ち破れ。

中・下層農民は、自民党と袂別し始めたのだ。我々は、レーニンのいう「革命的情勢」の条件が整いつつあることをはつきりみてとらねばならない。プロレタリア階級を先頭に、労働大衆は、これまでの生活をのぞまない、と同時に、国家独占資本主義の搾取と抑圧、収奪によってこれまでの生活も維持できなくなり、政治的活性化、戦斗化を強めている。このことは、昨秋の「狭山」「天皇」

三里塚斗争の過程では、つきり証明された。また昨年の労働争議件数が69年比の二倍以上、一万件をはるかに超えている事実も、このことを証明している。朝鮮侵略反革命に反対し、戦争に反対する斗争反動と斗い、天皇制ファシズムに反対する斗争反動と斗い、天皇制ファシズムに反対する斗争、国家独占資本主義の搾取と収奪、抑圧に反対する斗争を三大水路として大衆斗争は爆発・発展している。他方、プロレタリア階級の革命的エネルギーが大衆斗争の爆発・発展にもかかわらず燃焼しきれず閉塞している。これは、革命主体の未成熟、たち遅れの反映である。これに対し、ブンド系諸派は、自然的にブンド統合を主張し始めた。我々はブンドの統合に賛成である。その上で、我々は、オ三次ブンドの結成を提起する。ブンドは、58年現代修正主義に転落した「日共」と袂別して以来、一貫して日本共産主義運動の推進力であった。革命的翼であった。我々は、オ一次ブンドが基本的に確立した日帝打倒・社会主義革命の政路線を基本的に継承する。そして、オ二次ブンドがアジアの社会主义国と民族解放斗争に対するトロキズムの革共同に反対し、確立

した「アジアの社会主义国、民族解放斗争と結合して、日本における社会主義革命を推し進める路線」（高原『綱領草案』）国際路線を基本的に継承する。しかし、ブンドは、綱領の原則的部分（資本主義批判）、思想路線に於いて小ブルジョア急進民主主義であった。その結果、小ブルジョア急進民主主義が歴史の前進面を代表していた時代が終焉し、69年日米安保・72年沖縄「返還」を転回軸とした日帝の体制的危機の始まりと、朝鮮侵略反革命戦争の準備、労働運動の革命的高揚が始まる中で、「ブンドは、一方で武装斗争に着手し、他方では労働運動に着手した。しかし、ここで急進民主主義は、戦術と組織問題について、一方では武装斗争への着手という成長を反映する病であるテロリズム、戦斗団主義へ純化し、他方では労働運動との結合の開始という成長を反映する経済主義、合法主義へ純化し、ブンドは分裂したのであった。」（前書）ここから、第三次ブンド結成に向けた斗いは、「上からの党建設」という原則を踏まえる、と同時に、特殊ブンドの総括に規定され、まず綱領の原則的部、思想路線の一一致から開始すべきである。

我々は、党建設上の小ブル急進民主主義を粉碎し、第三次ブンドの統合を克ち取らねばならない。武装して斗う非合法党建設をかかる斗いの中で推し進めねばならない。いまこそ、六つのスローガンを堅持し、批判の武器に転化せよ。

労働者階級の一切を賭けて

二・二八暴言裁判決戦に立ち起せる△

昨年一月二八日、最高裁判所へ膨大な弁護側証拠資料を提出し、最高裁決戦に実質的に突入して一年が経過しようとしている。狭山最高裁決戦として、労働者階級の全体重をかけて部落大衆を先頭として闘われたこの間の闘争は、多くの前進を勝ち取りながらも、部落解放同盟の提起した「口頭弁論事実審理の開始、最高裁の全証拠開示、石川氏即時釈放」等々は何一つとして勝ち取られていないといふ厳しい現実を前提として、何がなんでも我々は勝利するんだという決意を新たにして事件に引き続いたこの失態を警察の威信を賭けて、なんとしても回復せんとして、部落に對する差別見込捜査を行ない、部落青年石川一雄氏をデッチ上げ逮捕したといふことに端を発している。この背景には60年安保紛糾闘争の昂揚に恐怖した日帝ブルジョアジーが当時肥大しつつあった過剰資本、過剰商品を对外侵略をもつて排出するためにも、この全人類的昂揚を鎮静化させ、革命的部分を抑圧弾圧することが至上課題としていたことを見抜かなければならぬ。戦犯タカ派の岸内閣

警察威信の失墜に対し、狭山事件関係者の連続的変死を無視し、柏村警察庁長官の「何がなんでも生きて犯人を逮捕しなければならない」という発言は自づと権力の本音を暴露しているし、善恵ちゃんの墓前に池田總理夫

人が直接赴くという異様ともいえる権力の対応は、日帝ブルジョワジーの60年安保総括の全体重を賭けて狭山差別事件をねつ造せんとする薄汚れた陰謀を示す証拠に他ならない。

狭山差別裁判は63年のいわゆる「中田善恵さん殺人事件」に対して、犯人取り逃がしといふ大失態を演じた警察権力が、吉展ちゃん事件に引き続いたこの失態を警察の威信を賭けて、なんとしても回復せんとして、部落に對する差別見込捜査を行ない、部落青年石川一雄氏をデッチ上げ逮捕したといふことに端を発している。この背景には60年安保紛糾闘争の昂揚に恐怖した日帝ブルジョアジーが当時肥大しつつあった過剰資本、過剰商品を对外侵略をもつて排出するためにも、この全人類的昂揚を鎮静化させ、革命的部分を抑圧弾圧することが至上課題としていたことを見抜かなければならぬ。戦犯タカ派の岸内閣

の後に、高度成長政策を掲げた池田内閣を登場させ、公共投資等の資本投下の中でインフレ状況を促進させ、名目賃金としての所得倍増論等をもつて労働者を買収し、実質的な貧困と不況の進行を覆いかくし、他方で警察権力を拡大し、全民民的昂揚を国民警察の名を

もつて抑え込み、闘う部分には容赦ない弾圧をかけるという、文字通りの日帝ブルジョワ

ジー側からの60年安保の総括の上に立って帝國主義戦略を貫徹せんとしていたのである。

こうした背景をもつて狭山差別裁判はねつ造

されてきたのだ。吉展ちゃん事件に引さ續く

きることなのである。

我々は、石川氏を先頭とした部落青年の闘争をもつて切り開かれた地平に立つて、自己批判、自己点検を踏まえつつ狭山差別裁判徹底糾弾の闘いを組織し展開してきた。しかしそれは一昨年10月30日の「無期懲役」という

寺尾差別判決を許すという限界として我々は

背反するものではないが、問題はどのような

路線に貫かれての全人民的闘争なのに応え

に加担し、その露払いをせんとしているのが

せんとする二つの果実をもぎとろうとしている。

日帝ブルジョワジーは60年安保総括の上に立った警察権力の威信拡大と、部落に対する予断と偏見、差別をまきちらすことによって労働者間の差別一分断一抑圧構造を更に強化せんとする意味で、石川青年にかけられたデッチ上

がた、こうした権力の野望は、第二審冒頭に

おける石川青年の「無罪宣言」によつて打ち

砕かれ、更に部落青年の浦和地裁占拠闘争に

よつて全人民的に暴露されることになつたの

である。

我々は、石川氏を先頭とした部落青年の闘争をもつて切り開かれた地平に立つて、自己批判、自己点検を踏まえつつ狭山差別裁判徹底糾弾の闘いを組織し展開してきた。しかし

それは一昨年10月30日の「無期懲役」という

寺尾差別判決を許すという限界として我々は

背反するものではないが、問題はどのような

路線に貫かれての全人民的闘争なのに応え

に加担し、その露払いをせんとしているのが

いるのである。

日帝も例外ではない。市場分割戦を媒介に

し醸成されたインフレ不況は世界の帝国主義

の60年安保を軸とした60年代前半の総括の一の60年安保を軸とした60年代前半の総括の

上に立つた権力犯罪であるならば、日帝

寺尾の差別判決は60年代後半から70年代にかけた日帝ブルジョワジーの総括と戦略の上に立つたものである。日本帝国主義は、65年日帝のベトナム侵略有反革命戦争加担としてアジアに於ける革命の防波堤を築き、その上に立てた市場分割戦として貫徹せんとしていた。

しかし英雄的ベトナム人民の闘いは世界帝国

「韓」条約締結をテコにアジア侵略の野望を

解を断呼批判し糾弾していかなければならぬ

い。

人々は権力犯罪という基本軸を明確にする中か

その意味で、石川青年にかけられたデッチ上

がた、「えん罪」論とか、様々な闘争の中の一

つでしかない等といった一部諸君のような見

解を断呼批判し糾弾していかなければならぬ

い。

日帝ブルジョワジーは60年安保総括の上に立つた警察権力の威信拡大と、部落に対する予断と偏見、差別をまきちらすことによって労働者間の差別一分断一抑圧構造を更に強化せんとする二つの果実をもぎとろうとしている。

日帝も例外ではない。市場分割戦を媒介に

し醸成されたインフレ不況は世界の帝国主義

の幻想を一切断ち切つたところで軍隊、

警察、官僚を軸とした天皇制ファシズムの前

面への登場である。これは経團連桜田の「例

い構造の中で、奴らは新たな侵略反革命戦争

の準備を着々と押し進めんとしているのであ

る。それは統治形態の転換であり、戦後民主

化をもつて切り開かれた地平に立つて、自己

批判、自己点検を踏まえつつ狭山差別裁判徹底糾弾の闘いを組織し展開してきた。しかし

それは一昨年10月30日の「無期懲役」という

寺尾差別判決を許すという限界として我々は

背反するものではないが、問題はどのよう

な路線に貫かれての全人民的闘争なのに応え

に加担し、その露払いをせんとしているのが

いるのである。

日帝も例外ではない。市場分割戦を媒介に

し醸成されたインフレ不況は世界の帝国主義

の野望は、65年日帝のベトナム侵略有反革命戦争加担としてアジアに於ける革命の防波堤を築き、その上に立てた市場分割戦として貫徹せんとしていた。

しかし英雄的ベトナム人民の闘いは世界帝国

「韓」条約締結をテコにアジア侵略の野望を

解を断呼批判し糾弾していかなければならぬ

い。

人々は権力犯罪という基本軸を明確にする中か

その意味で、石川青年にかけられたデッチ上

がた、「えん罪」論とか、様々な闘争の中の一

つでしかない等といった一部諸君のような見

解を断呼批判し糾弾していかなければならぬ

い。

人々は権力犯罪という基本軸を明確にする中か

その意味で、石川青年にかけられたデッチ上

日共の「天皇宗」容認という形での実質的天皇制擁護であり、「新しい日本の会」民社、公明などのブルジョワジー第二戦線等の修正主義、社会帝国主義潮流なのである。更に帝國主義延命のための統治形態の転換の矛盾は労働者勤労者大衆に転嫁される。それは労働者総体に対する賃金統制と収奪の強化であり、革命はそれぞれに継続されていかなければならぬ。75・76春闘の経営側ガイドラインを突破しえず敗北した背景となつてゐるのである。不況をブルジョワの武器として下請け、孫請け、中小零細企業を切り捨て、独占資本に利潤をますます集中していくことによつて大独占は更に肥え太り、労働者は更に貧困と零落を強制されるのだ。失業者百万人時代が恒常化しつつある現在、日帝ブルジョワジーはこうした労働者勤労大衆の不満を、「下には下がいる」という労働者の差別一分断構造を更に強化することによつて矛盾を下層にしわよせせんとしているのだ。この労働者差別一分断・抑圧攻撃の最底辺の沈め石としておかるのが部落差別なのである。こうした日帝の70年代における危機と新たな侵略反革命戦争遂行の焦りの中で、部落差別をテコとした労働者差別一分断攻撃を更に強化せんとする奴らの野望をはつきりと見抜いた上で日帝一寺尾差別判決を徹底的に糾弾し、最高裁決戦を勝利し抜いていかなければならないのだ。狭山差別裁判に於ける日帝の動向を見抜けない輩は「部落差別はない」とか「封建的遺制だ」とか「石川氏は実は犯人だ」などとわめき散らす日共、カクマル等のように全く犯罪的な反革命差別者集団に転落するか、「血債の思想」などという小ブルヒューマニズムよろしく、自己批判一糾弾を悪無限的に続ける結果に陥

つていくのである。更に政治革命と社会革命の相異も知らずに、「革命が起されば差別はなくなる」とわめく輩も批判していかなければならぬ。権力問題としてのプロ独樹立の後でも部落完全解放の闘いは継続されなければならないし政治革命、社会革命、文化革命はそれぞれに継続されていかなければならぬ。

山政治ストとして労働者の職場地域での闘い

日帝一寺尾差別判決が以上のような日帝ブルジョワジーの総括と戦略の上に立つてゐる。ルジョワジーの総括と戦略の上に立つてゐる。この一年に亘る闘いは、第一に部落として地域運動が活性化しつつあるなどに敵の攻撃を味方の武器に転化し、労働者階級の差別一分断攻撃を労働者階級の団結で打ち破り、労働者の侵略反革命戦争動員体制を革命戦争で打ち破り、日帝の差別キャンペークを日帝の危機の暴露として宣伝煽動し抜いていかなければならない。狭山差別裁判徹底糾弾の闘いは、まさにプロ独立社会主義に貫かれ全人民的闘争として組織されなければならぬ。現在、一部の輩が提起している狭山差別裁判糾弾のための国民会議構想は、60年安保闘争に於ける国民会議の総括をまつまでもなく、物事の本質を曖昧にさせ、石川一雄氏が主張している階級闘争としての部落解放闘争の地平を低めるものに他ならないであろう。

我々は、プロ独立社会主義で貫かれた狭山差別裁判徹底糾弾、部落完全解放の闘いを、まさに部落解放同盟が提起した「労働者の解放なくして労働者の解放なし」という立脚点を堅持して部落の解放なし、部落の解放なくして労働者の解放なし」という立脚点を堅持し労働者階級の第一級の責務として貫徹していく。その立場に立つてこそ初めて日帝一寺尾差別判決を糾弾し抜き、放闘争の地平を低めるものに他ならないであろう。

一月二八日の闘いは、日帝一寺尾差別判決の怒りを武器に転化し、最高裁闘争一年の闘争の大爆発に対する日帝の朝鮮侵略反革命戦争遂行体制でもあるのだ。

12・18日、日比谷小公園に70名の結集で、ブルジョワ階級をして自ら叶露せしめている。我々支援委員会は、こうした革命的情勢の下で英雄的に闘われている反米・反日・朴打倒日本帝国主義の体制的危機がもはや誰れの目にとも疑いようもなく突き進み、「石油ショック以降の日本経済は戦後最大の恐慌だ」とツク以降の日本経済は戦後最大の恐慌だ」と

12・18日、日比谷小公園に70名の結集で、ブルジョワ階級をして自ら叶露せしめている。同時にロッキード疑惑によつて戦後保守政治未統一行動が未決長期拘留粉碎連絡会議の呼びかけで闘われた。集会はこの間飛躍的に強化されている権力の弾圧に抗して闘う、ハイジャック公判闘争支援委員をはじめとして、日共、カクマル等のように全く犯罪的な反革命差別者集団に転落するか、「血債の思想」などという小ブルヒューマニズムよろしく、自己批判一糾弾を悪無限的に続ける結果に陥られた。とりわけ、獄中七年目を迎えたとしている、よど号ハイジャック闘争「被告」の高原氏、塩見氏保釈を全力で闘い取ることを強く確認した。集会終了後、結集した部隊は戦闘的デモンストレーションを實行し、超长期拘留粉碎・未決拘留者奪還の闘いの更なる發展を確認した。

つていくのである。更に政治革命と社会革命の相異も知らずに、「革命が起されば差別はなくなる」とわめく輩も批判していかなければならぬ。権力問題としてのプロ独樹立の後でも部落完全解放の闘いは継続されなければならないし政治革命、社会革命、文化革命はそれぞれに継続されていかなければならぬ。

山政治ストとして労働者の職場地域での闘い

が拡大し、労働者階級の第一級の闘争として定着しつつあり、更に「造花の判決」上映運動として地域運動が活性化しつつあるなどに敵の攻撃を味方の武器に転化し、労働者階級の差別一分断攻撃を労働者階級の団結で打ち破り、労働者の侵略反革命戦争動員体制を革命戦争で打ち破り、日帝の差別キャンペークを日帝の危機の暴露として宣伝煽動し抜いていかなければならない。しかし、最初に述べたように、「口頭弁論事

ならば、我々が最高裁決戦に勝利し抜くためには敵の攻撃を味方の武器に転化し、労働者階級の差別一分断攻撃を労働者階級の団結で打ち破り、労働者の侵略反革命戦争動員体制を革命戦争で打ち破り、日帝の差別キャンペークを日帝の危機の暴露として宣伝煽動し抜いていかなければならない。狭山差別裁判徹底糾弾のための国民会議構想は、60年安保闘争に於ける国民会議の総括をまつまでもなく、物事の本質を曖昧にさせ、石川一雄氏が主張している階級闘争としての部落解放闘争の地平を低めるものに他ならないであろう。

我々は、プロ独立社会主義で貫かれた狭山差別裁判徹底糾弾、部落完全解放の闘いを、まさに部落解放同盟が提起した「労働者の解放なくして労働者の解放なし」という立脚点を堅持し労働者階級の第一級の責務として貫徹していく。その立場に立つてこそ初めて日帝一寺尾差別判決を糾弾し抜き、放闘争の地平を低めるものに他ならないであろう。

一月二八日の闘いは、日帝一寺尾差別判決の怒りを武器に転化し、最高裁闘争一年の闘争の大爆発に対する日帝の朝鮮侵略反革命戦争遂行体制でもあるのだ。

12・18日、日比谷小公園に70名の結集で、ブルジョワ階級をして自ら叶露せしめている。同時にロッキード疑惑によつて戦後保守政治未統一行動が未決長期拘留粉碎連絡会議の呼びかけで闘われた。集会はこの間飛躍的に強化されている権力の弾圧に抗して闘う、ハイジャック公判闘争支援委員をはじめとして、日共、カクマル等のように全く犯罪的な反革命差別者集団に転落するか、「血債の思想」などという小ブルヒューマニズムよろしく、自己批判一糾弾を悪無限的に続ける結果に陥られた。とりわけ、獄中七年目を迎えたとしている、よど号ハイジャック闘争「被告」の高原氏、塩見氏保釈を全力で闘い取ることを強く確認した。集会終了後、結集した部隊は戦闘的デモンストレーションを實行し、超长期拘留粉碎・未決拘留者奪還の闘いの更なる發展を確認した。

つていくのである。更に政治革命と社会革命の相異も知らずに、「革命が起されば差別はなくなる」とわめく輩も批判していかなければならぬ。権力問題としてのプロ独樹立の後でも部落完全解放の闘いは継続されなければならないし政治革命、社会革命、文化革命はそれぞれに継続されていかなければならぬ。

山政治ストとして労働者の職場地域での闘い

が拡大し、労働者階級の第一級の闘争として定着しつつあり、更に「造花の判決」上映運動として地域運動が活性化しつつあるなどに敵の攻撃を味方の武器に転化し、労働者階級の差別一分断攻撃を労働者階級の団結で打ち破り、労働者の侵略反革命戦争動員体制を革命戦争で打ち破り、日帝の差別キャンペークを日帝の危機の暴露として宣伝煽動し抜いていかなければならない。しかし、最初に述べたように、「口頭弁論事

ならば、我々が最高裁決戦に勝利し抜くためには敵の攻撃を味方の武器に転化し、労働者階級の差別一分断攻撃を労働者階級の団結で打ち破り、労働者の侵略反革命戦争動員体制を革命戦争で打ち破り、日帝の差別キャンペークを日帝の危機の暴露として宣伝煽動し抜いていかなければならない。狭山差別裁判徹底糾弾のための国民会議構想は、60年安保闘争に於ける国民会議の総括をまつまでもなく、物事の本質を曖昧にさせ、石川一雄氏が主張している階級闘争としての部落解放闘争の地平を低めるものに他ならないであろう。

我々は、プロ独立社会主義で貫かれた狭山差別裁判徹底糾弾、部落完全解放の闘いを、まさに部落解放同盟が提起した「労働者の解放なくして労働者の解放なし」という立脚点を堅持し労働者階級の第一級の責務として貫徹していく。その立場に立つてこそ初めて日帝一寺尾差別判決を糾弾し抜き、放闘争の地平を低めるものに他ならないであろう。

一月二八日の闘いは、日帝一寺尾差別判決の怒りを武器に転化し、最高裁闘争一年の闘争の大爆発に対する日帝の朝鮮侵略反革命戦争遂行体制でもあるのだ。

12・18日、日比谷小公園に70名の結集で、ブルジョワ階級をして自ら叶露せしめている。同時にロッキード疑惑によつて戦後保守政治未統一行動が未決長期拘留粉碎連絡会議の呼びかけで闘われた。集会はこの間飛躍的に強化されている権力の弾圧に抗して闘う、ハイジャック公判闘争支援委員をはじめとして、日共、カクマル等のように全く犯罪的な反革命差別者集団に転落するか、「血債の思想」などという小ブルヒューマニズムよろしく、自己批判一糾弾を悪無限的に続ける結果に陥られた。とりわけ、獄中七年目を迎えたとしている、よど号ハイジャック闘争「被告」の高原氏、塩見氏保釈を全力で闘い取ることを強く確認した。集会終了後、結集した部隊は戦闘的デモンストレーションを實行し、超长期拘留粉碎・未決拘留者奪還の闘いの更なる發展を確認した。

つていくのである。更に政治革命と社会革命の相異も知らずに、「革命が起されば差別はなくなる」とわめく輩も批判していかなければならぬ。権力問題としてのプロ独樹立の後でも部落完全解放の闘いは継続されなければならないし政治革命、社会革命、文化革命はそれぞれに継続されていかなければならぬ。

山政治ストとして労働者の職場地域での闘い

が拡大し、労働者階級の第一級の闘争として定着しつつあり、更に「造花の判決」上映運動として地域運動が活性化しつつあるなどに敵の攻撃を味方の武器に転化し、労働者階級の差別一分断攻撃を労働者階級の団結で打ち破り、労働者の侵略反革命戦争動員体制を革命戦争で打ち破り、日帝の差別キャンペークを日帝の危機の暴露として宣伝煽動し抜いていかなければならない。しかし、最初に述べたように、「口頭弁論事

ならば、我々が最高裁決戦に勝利し抜くためには敵の攻撃を味方の武器に転化し、労働者階級の差別一分断攻撃を労働者階級の団結で打ち破り、労働者の侵略反革命戦争動員体制を革命戦争で打ち破り、日帝の差別キャンペークを日帝の危機の暴露として宣伝煽動し抜いていかなければならない。狭山差別裁判徹底糾弾のための国民会議構想は、60年安保闘争に於ける国民会議の総括をまつまでもなく、物事の本質を曖昧にさせ、石川一雄氏が主張している階級闘争としての部落解放闘争の地平を低めるものに他ならないであろう。

我々は、プロ独立社会主義で貫かれた狭山差別裁判徹底糾弾、部落完全解放の闘いを、まさに部落解放同盟が提起した「労働者の解放なくして労働者の解放なし」という立脚点を堅持し労働者階級の第一級の責務として貫徹していく。その立場に立つてこそ初めて日帝一寺尾差別判決を糾弾し抜き、放闘争の地平を低めるものに他ならないであろう。

一月二八日の闘いは、日帝一寺尾差別判決の怒りを武器に転化し、最高裁闘争一年の闘争の大爆発に対する日帝の朝鮮侵略反革命戦争遂行体制でもあるのだ。

12・18日、日比谷小公園に70名の結集で、ブルジョワ階級をして自ら叶露せしめている。同時にロッキード疑惑によつて戦後保守政治未統一行動が未決長期拘留粉碎連絡会議の呼びかけで闘われた。集会はこの間飛躍的に強化されている権力の弾圧に抗して闘う、ハイジャック公判闘争支援委員をはじめとして、日共、カクマル等のように全く犯罪的な反革命差別者集団に転落するか、「血債の思想」などという小ブルヒューマニズムよろしく、自己批判一糾弾を悪無限的に続ける結果に陥られた。とりわけ、獄中七年目を迎えたとしている、よど号ハイジャック闘争「被告」の高原氏、塩見氏保釈を全力で闘い取ることを強く確認した。集会終了後、結集した部隊は戦闘的デモンストレーションを實行し、超长期拘留粉碎・未決拘留者奪還の闘いの更なる發展を確認した。

た、早期決審、長期投獄の攻撃をかけてきた

のである。これに対して、高原氏は「幽居」として不当な超長期拘留を弾劾し保釈要求を裁判所に突き付けて闘っている。

このように、ハイジャック公判闘争は7年

ア
シ
ビ
リ
ル

高原浩之

るための重要な任務です。現在、日帝はブルジョア階級独裁の統治形態をブルジョア民主主義から天皇制ファシズムへ転換しつつあります。ブルジョア階級は、天皇制を前面化し、執行権力を肥大化させ、無力な議会で選出さ

目を迎える最大の山場・天王山を迎えていく。
そして、1／24日公判以降、地裁・検事は塙
見氏の証人尋問を通じて「共謀共同正犯」の
立証を行う陰謀を狙っている。しかし、この

本日の統一行動に決起された人民諸君！
团结して天皇制ファシズムを打ち破りましょ
う。私の拘留は、既に六年半に達しており、
ノルジヨワ法とブルジヨワ民主主義的に解釈
すれば、明らかに不当に長期にわたる拘留で
あり、当然保釈されるべきです。ところが、

れる内閣は保革でも、社公民でも、社「共」でも適当にイチヂクの葉に都合のよいものにし、実際は天皇を代表者として、軍隊・警察・官僚機構を握り、動かそうとしています。しかし、これを恐れる必要はありません。実は、人民が今まで通り反対する二二三里木

鬭争で不當に逮捕された五名の「被告」はこの「共謀共同正犯」を法的根拠とした、ブルジョア階級の階級的報復によつてデッチ上げ逮捕されているからだ。そしてこの敵の根拠が実は革命派に対する、先行的破防法体制の現実的な武器となつてゐる。「赤軍派に属しているから、同一組織に所属しているから」という理由で不當なデッチ上げで獄中に長期に拘留しているのだ。

公判はこの第一の眼目、第二の眼目をめぐつて確實に地裁・検事を追い詰めていくであろう。第一の眼目に於ける公判闘争の地平を更に押し広げよう。高原氏の保釈を克ち取ろ

当然保護されるべきでありますところが、権事は保釈を阻止するために露骨に公判進行をスピードアップし、早期に結審しようとしており、裁判長はこれに加担しています。保釈を認めずろくに審理もせず、さっさと長期の実刑を課すこのファシズム裁判へ転換つづけあります。これを粉碎し、保釈を獲得するために公判闘争への支援をお願いします。しかし日帝権力が、現在「転向か? 獄死か?」、「第二の佐野、鍋山か? 第二の市川正一か?」という攻撃に出ていていることを見抜かなければなりません。革命家、共産主義者は、この攻撃を恐れず受け立ち、たとえ獄死しようとも転向を拒否し、思想を堅持し、闘争を堅持しなければなりません。市川正一、徳山一など偉大な先輩に学ばなければなり

は人民が今まで通り支配されることを望まなくなり、ブルジョア階級が今まで通り支配していくことができなくなつてゐるのです。マルクス・レーニン主義党を建設し、社会主義統一戦線を結成し、天皇制ファシズムを攻撃し、全人民の武装を実現し、暴力革命と、天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構を粉砕し、プロレタリア階級独裁を打ち立てましょう。これが、人民の勝利の道です。團結してこの道を進みましょう。私は現在、11月10日天皇50年式典粉砂闘争に呼応した獄中秋闘を闘つたので、東拘当局から7日間の懲罪を課せられています。公判のための一日の執行停止を利用してこのアッピールを送つています。屈服することなく闘います。

プロ独立社会主義に領導された
革命的労働運動を獲得しよう

「プロレタリア革命は労働者階級の偉大な事業である」とレーニンが喝破したように、労働者階級は一貫して、資本家どもの墓壙り人としての壮大な歴史的任務を持つている。我々は特に、高度に発達した資本主義国家——日本帝国主義下の労働者階級の責務は国際的重要性を有していることを明らかにしていくし、そうした労働者階級に依拠し領導し抜く武装し斗う体系的合法政党建設を我々の第一の任務にしてきている。

特に、この間、7年にわたる光文社闘争の勝利、それとほぼ同じくしての全臨労東京中部輸送分会に対する47名逮捕という、かつてない大量弾圧、更に多くの問題を残した第5回全国労活交流集

云々、そして 10・31 狹山中央闘争、11・10 天皇在位「50 年式典」粉碎闘争への数多くの労働者の決起等、76 年後期の労働戦線は新たな飛躍へ向かっての特徴ある様相を呈して展開された。

現在の日帝は、修正主義、社「共」のふりまいた「平和と民主主義」と、日帝の二流から一流帝国主義復活と高度成長の中で維持してきたイチジクの葉—議会制民主主義的統治形態では、その支配をもはや延命さすことが困難になり、天皇制を前面に押し出し、軍隊・官僚・警察を権力実態とした天皇制ファシズム的統治形態への転換を至上命令としている。この反動的攻撃はベトナム侵略反革命戦争敗北の総括と、70年以降突入した慢性的インフレ不況をなんとしてでも打開せんとして導き出されたものであり、それは朝鮮侵略反革命戦争に向いているものであることを我々は何度も暴露し確認してきた。

こうした権力再編攻撃は、労働者階級に對して、賃金統制による作取と、産業と行政機關の合理化による抑圧、インフレと投機による

諸物価値上げというインフレ攻撃とは逆に74年の賃上げ率約33%をピークにして75年の13%、76年の88%と年ごとに半分ずつ低下するという、文字通りの日経連ガイドラインの賃金統制として表現されたのである。IMF・JC・戦盟等の帝国主義労働運動は既に日帝の左足として、こうした賃金統制に加担し、中道革新、「新しい日本の大會」などとして日帝のお墨付きをもらい、今回総選挙の躍進として自民党補完物として登場せんとしているのである。更に社「共」、総評民同は、口では敗北と語りつつも、日帝の労働者搾取抑圧に抗し、非妥協的に闘争を持続せんとする青年労働者、戦闘的少数民族、未組織労働者の闘いを官僚的に統制し弾圧する側にまわってるのである。しかし、こうした日帝と、修正主義、社会帝国主義集団の一體となつた闘う労働者攻撃に対して、労働者階級は全戦線で反撃を開始しつつある。第一に国家独占資本の下の労働組合（公労協）に組織された労働者の闘争が、修正主義、社「共」の支配を突破して爆発し、第二に民間独占資本の下の労働組合で帝国主義的労働運動（同盟、IMF・JC）の支配が搖ぎ始め、第三に被差別部落大衆、被抑圧少数民族、社外工、臨時工、中小零細企業の労働者などの闘いが激発しているのである。

労働者階級の闘いの激発は、69年から年平均五千であつた争議件数が、現在では既に一万をはるかに越える争議件数があるということも明白であろう。特に中小零細企業、社外工、臨時工の闘いが頻発していることに我々は注目しなければならない。東京においても既に9月14日清水谷公園において東京の争議団が結集し、相互の連帯支援の下に闘い抜いていくことを確認し、関西においても南大阪の金属労働者を中心とする闘いが準備されている。こうした闘争は文字通り自からの生存を賭けた闘争であるが故に、帝国主義労

12月10日 高原浩之

労運動や総評民同の統制を打ち破り、実力闘争として貫徹されているのである。こうした戦闘的労働運動を徹底的に弾圧し、帝国主義的労働運動に閉じ込み、朝鮮侵略反革命戦争へ動員し、買収に応じる労働者として手なづけ産業報国労働者に対することが現下の日帝ブルジョワジーの至上課題なのである。それ故、日経連は南大阪の戦闘的労働運動と東京南部・京浜地区の労働運動弾圧に直接乗り出し、警察を手先として徹底的な弾圧滅作戦を開戦せんとしているのである。特に全金田中機械の戦闘的労働者を軸とした南大阪地区労働運動に対しては、元請け会社の発注停止、徹底的な労働者逮捕投獄をもって弾圧をきているし、東京においても、27日の全臨労47名逮捕を始めとして争議即逮捕という状態が続いている。警察が「爆弾」「内ゲバ」等と共に「少数派組合運動」弾圧を公然と表明しているように、いまや日帝ブルジョワジーにとって中小零細企業の争議は労働者階級の闘いとして極めて大きな比重を持つた恐怖せざるをえない部分になつてきているのである。こうした日帝ブルジョワジーの意図を汲み登場してきているのが、全臨労闘闘争の中で暴露された民族派労働運動の進出である。「一水会」等を軸とした新右翼・民族派は天皇制ファシズムの先兵であり、我々は民族派労働運動の登場を何としても粉碎し打倒していかなければなら

暴力革命こそ勝利の道

選挙は資本の意志を反映する

資本家階級の支配の道具・選挙は、公約・口約束、バラ色の福祉計画を街頭で大宣傳したり。だが選挙が終つたとたん、大安売りの商品は高級デパートの商品に化け、もはや労働人民の手には届かなくなつた。与野党は労働人民の参加できない赤絨毯での茶番劇に備え、生臭い駆け引きに没頭している。

橋本、二階堂は当選した。選挙区・地元に地を利用して公共事業などの施しものを与え、選挙ともなれば札ビラで顔をなでるのである。公共事業はそもそも、労働人民の剩余価値が税金の名によつて国家独占資本主義に吸い込まれたものである。資本の政治的代理人として、資本と組んで巨利・暴利を得つづけるため、選挙区・地元に施しものをバラまき、地位の利用と地位の確保の悪循環を操り返すのである。ブルジョア階級の選挙は「搾取のために蓄積し、蓄積のために搾取する」資本主義の悪循環の政治的表現である。

勤労人民の中には、政党ではなく個人をみて投票するという人も多い。だが、これは参院選全国区を見ても分るよう、何百万票もとつた候補が数万票で当選した党長老の命令どうり動いている。何百万人の意志は反映されず、法案成立の手玉機械になつていて。ブルジョア選挙は真に人民の意志を反映せず、資本の意志を反映する。

第二保守党と社会党の分解

自民、「共産」が凋落し、新自由、公明、民社が議席を伸ばした。ブルジョア政党の露骨な分派である公明・民社は財界の期待に沿つて資本主義に「責任をもてる党」を目指している。いずれ、新自由と江公民は結合し、財界の望む第二保守党を結成し、日本に保守二党制を確立させようとするであろう。この動きは急ピッチである。

この公明、民社とブルジョア政党の隠然たる分派・「日共」の争いに煽られ、狹まれ、社会党は分解を必至としている。成田・石橋

ない。

こうした警察権力を前面に押し出し、民族派ファシストを手先とした戦闘的労働者への敵対は、天皇制ファシズム的統治形態への転化の具体的表現に他ならない。文字通り、ブルジョワジーの全体重をかけて、闘う労働者階級を押しつぶさんとする攻撃に対しても、労働戦線側の闘いは未だ個別資本に対する争議という段階に止まっている傾向を色濃く持つてゐることはいなめない。それ故当該ト支援争議組合・支援というサイクルに止まり、総資本と如何に対決し労働者権力樹立に向かつて進撃していくのかという観点が曖昧になつてゐるのである。戦闘的組合運動は形成しうるけれども総資本と対決する政治過程に労働者階級として登場しえないので、労活動の大きな限界でもあつたことを見るならば、我々は何としても総資本と対決しうるプロ独立社会主義で貫かれた労働戦線を構築していかなければならない。

強搾取と支配の構造である労働者の差別・分断・抑圧攻撃を粉砕し、総資本と対決しうる革命的労働運動の萌芽は、争議団体・労働者下層・不安定未組織労働者としての社外工・臨時工・パート・日雇労働者などの中から着実に成長しつつある。革命的労働運動構築に向かつて前進しようではないか。

が全野党共闘を叫べど、公明、民社と「日共」は激しく争つており、もはや誰が見ても全野党共闘など不可能であることは分りきつてゐる。だが、江田派と協会派の間に立つて、なんとか分解・分裂を阻止している成田・石橋は、一方に味方すればそれに反対する勢力が社会党を飛び出し、政権獲得どころか野党第一党さえ危うくなるので、自分自身でさえ信じていない全野党共闘といふ偽善を口走つてゐるのである。だが社会党の分解はもはや避けられない。自民が分裂する時、社会党も連合体であるように、社会党も労働貴族の政治理的派閥の連合体である。連合体としては自然なる分派・公明、民社がウソ八百をいつたほうが真実味が出たのである。資本の権力を暴力で打倒し、労働者階級の権力を樹立し、ブルジョア階級の独占している生産手段を奪取せねば、公約・口約束、バラ色の福祉計画など実現のしようもない。「日共」は暴力革命・プロレタリア階級独裁を放棄し、改良主義・議会主義の道を突つ走ってきたが、今選挙ではそれを逆手に取られて敗北した。それが宮本スパイ查問事件の民社・公明と「日共」の攻防であった。民社・春日によつてとりあげられたこの問題は、鬼頭の飛び入り出演によつて綱走刑務所から特務・鬼頭が宮本資料を不法に持ち出し、自民田中派・民社・公明へと渡つていたことが判明した。だが、この謀略判明に乗じて「日共」は逆襲に出ることができず、防戦一方で、結局、選挙でも民社・公明に敗北した。とことん現代修正主義、

公明、民社はもちろん、「日共」、社会党とも議会の演壇から革命を呼びかける議員が一人もいない！ここにこそ、こいつらがブルジョア変節漢であることが誰にでも分る。革命はブルジョアジーのかかる弾圧に對して徹底的に最後まで戦うものである。

「日共」は先達の治安維持法下における党防衛の政治行動を冒瀆し、清算し、平和の宮本を売るために、特異体質によるショック死などを後退的防戦をし、民社・公明につけ込んだのである。「日共」が武器としてきたブルジョア民主主義は、逆に「日共」を振り回すようになつてゐる。より一層の現代修正主義の右傾化に拍車がかゝつてゐる。

公明、民社はもちらん、「日共」、社会党とも議会の演壇から革命を呼びかける議員が一人もいない！ここにこそ、こいつらがブルジョア変節漢であることが誰にでも分る。革命はブルジョアジーのかかる弾圧に對して徹底的に最後まで戦うものである。

革命はブルジョア階級の握つてゐる国家権力を打倒して労働者階級の国家権力を樹立し、そのプロレタリア階級独裁を使つてブルジョア階級の独占せる生産手段を労働者階級に握られているかぎり、生産手段の奪取は不可能である。ブルジョア階級の利益をおもに譲り込んでゐる「日共」は、革命的暴力・暴力革命の放棄の立場から、スパイはブルジョア階級のあやつり人形・ロボットの死は特異体質によるショック死などと後退になる。ブルジョア階級独裁を打倒するため

には暴力革命が絶対、必要である。さらに、暴力革命は単に敵の打倒の手段だけでなく、労働者階級がその過程で旧社会の残滓を自分自身から一掃し、社会主義・共産主義の建設者としての能力を勝ちとるうえでも必要不可欠なのだ。

議会主義とは数十人の選ばれた先生しか参加できないものである。暴力革命は何千万人の労働者人民が参加するものである。革命は先生方のものではなく、大衆のものである！ 読者諸君！ 議会主義を粉碎し、暴力革命の準備のための戦闘を開こう！ 敵は議会の

茶番劇に人民をひきつけ、その裏で天皇制アシズムを行なっている。「天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構の粉碎！ 全人民の武装！」を掲げ、暴力革命・大衆の嵐のような決起を目指す我党に結集せよ！

青山||牧野一樹を除名処分とする。除名決議

マルクス・レーニン主義編集委員会は、青山||牧野を以下の理由により除名することを決議する。

理由

- (1) 青山||牧野は11/10天皇在位50年「式典」粉碎闘争の直前に、わが編集委員会から脱走・逃亡し、「『天皇制打倒』は誤りだ」「11/10闘争は闘うべきでない」との右からの反対分裂活動をおこなつた。
- (2) 青山||牧野は、わが編集委員会に虚偽の報告をしつづける、同時に、指導的地位を利用して、機関を私物化し独立王国を打ち建てるようとし、中央集権主義に敵対した。
- (3) 青山||牧野は、わが編集委員会の資金を私的目的のために持ち出し使い込み、編集委員会の財政に巨大な損害を与えた。

一九七六年12月×日

わが編集委員会は、我々の中にもぐりこんでいた階級的異分子青山||牧野を発見し、批判し打倒し、除名を勝ち取った。青山||牧野は、昨秋闘争の最大の焦点であつた天皇在位50年「式典」粉碎闘争の爆発に恐怖し、その直前にわが編集委員会から脱走・逃亡した。青山||牧野は、第二の佐野・鍋山であり、天皇制打倒を回避する社会帝国主義集団の一員である。いまや、我々は、青山||牧野にプロ独立社会主義革命の鉄錐を下す義務と権利を持つている。読者諸君！ 我々は青山||牧野除名という偉大な勝利の地平を踏まえ、結成以来の我々の活動を総括し、この数年にわたる長期的任務を諸君と共に確認したい。

第一章 我々の路線は基本的に正しかつた

安保粉碎・日帝打倒・米帝追放・プロ独立社会主義革命を目指し、マルクス・レーニン主義党を建設し社会主義統一戦線を結成し、天皇制ファシズムを攻撃し、革命戦争で討ち破れ！！

我々は連合赤軍問題を、また赤軍派を、そしてブンドを総括して路線を決定した。その際、我々は、レーニンが『イスクラ』創刊号に発表した『われわれの運動の緊要な諸任務』を参考とした。

一方では、労働運動が社会主義から切り離れようとしている。すなわち労働者が経済闘争をおこなうのを援助してはいるが、その総合としての全運動の社会主義的目標や政治的任務を労働者に説明することは、まったくされていないか、あるいは、不十分にしかなされていない。他方では社会主義が労働運動から切り離されようとしている。すなわち、ロシアの社会主義者は、またしても、労働者・経済闘争だけにとどまっている以上、政府との闘争はインテリゲンツィアが独力で遂行しなければならないと、ますます語りはじめている。」

「社会民主主義は労働運動と社会主義との結合である。」

「このことからして、ロシア社会民主主義派が、その実現を使命とする任務がおのずから生れる。それは、プロレタリアートの大衆のなかに社会主義思想と政治的自覚を植えつけ、自然発生的な労働と切り離せないように結びついた革命党を組織するという任務であ

第二章 党生活の根本的原則を確立しよう

結成以来、我々はヘプロ革命派との党派闘争、綱領論争、大衆闘争に取り組んで来たがこれは、我々が党派として登場するのにどう後、テロリズムに向った人々の現状を見れば、また経済主義に向つた人々が、その誤りを克服しようとしている現状を見れば明らかである。しかし、問題は、急進民主主義の基盤の上で、ある時はテロリズムに、別の時は経済主義に重点を置いて両者を折衷し、外見上、一見、ヘプロレタリア革命派のように装っている人々と我々との対立である。これはまだ決着がついていないし、今後、長期にわたって対立が継続し、決着がつくにはまだ時間がかかるであろう。

「マルクス主義をやるのであつて、修正主義をやつてはならない。團結するのであつて、分裂してはならない。公明正大であつて陰謀術策をめぐらしてはならない」（毛沢東）。

第一項は、思想上・政治上の原則である。第二項は、組織上の原則である。第三項は、党風についての原則である。これを我々の党生活の根本原則として確立しなければならない。

第三章 暫定綱領を基礎に綱領草案を獲得しよう

我々が獲得した暫定綱領は次の6つのスローガンである。これを繰り返し繰り返し確認し、これを基礎として統一と團結をがっちりと固めなければならない。これは、今後真価を發揮するである。

「思想面・政治面での路線が正しいか、どうかがすべてを決定する」（毛沢東）

① テロリズム、経済主義の急進民主主義を精算し、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命路線を獲得しよう！ これは総括的眼目であり、思想路線である。ポイントは次の3点である。①マルクス・レーニン主義は共産主義と労働運動の結合である。②一方では、共産主義革命を、小ブルジョアインテリゲンツィアの個人的闘

争ではなく、労働者階級の階級闘争、プロレタリア階級独裁で実現しなければならない。③他方では、労働者階級の階級闘争を、経済闘争・民主主義闘争にとどめるのではなく、プロレタリア階級独裁共産主義革命にまで拡大しなければならない。

[II] 反スターツロッキズムを批判し、反帝反社帝、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の路線を獲得しよう！ これは、現在の国際共産主義運動に対する立場ではなく、プロレタリア階級独裁を樹立するものである。ポイントは次の3点である。①毛沢東思想は、マルクス・レーニン主義の発展である。②一国でプロレタリア階級独裁を樹立した後に、社会主義を建設することは不可能ではなく、可能であり、世界革命にとって不必要ではなく、必要である。③社会主義においても、共産主義を実現するために、プロレタリア階級独裁と共に産主義革命を放棄するのではなく、継続しなければならない。我々はスターリン問題、つまり、過去の一時期の国際共産主義運動については一致がないが、必ず、公明正大な綱領論争によって一致を得るであろう。

[III] 日米安保体制を粉碎し、日本帝国主義を打倒し、米帝国主義を追放し、プロレタリア階級独裁を樹立し、社会主義を建設し、共産主義を実現しよう！ これは、政治路線である。当面する日本革命は、安保体制に基づく、日帝、米帝の連合支配に対する民族解放を含む社会主義革命である。我々は、戦前の天皇制を日本革命の問題、つまり、戦前の日本共産主義運動の総括については、まだ一致がないが、必ず、公明正大な綱領論争によって一致を得るであろう。

[IV] 「共産党」、社会主義協会、革マルなどの修正主義、社会帝国主義集団を打倒し、日本プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党を創建しよう！ これは、党建設の問題である。ポイントは次の2点である。①社会帝国主義は、第一に日本帝国主義との結合であり、第二にソ連社会帝国主義との結合である。②党建設と階級形式を二元化し、放棄するのではなく一元化し、プロレタリア階級をマルクス・レーニン主義党に組織しなければならない。

[V] プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党を通じた指導の下人民を結集して、社会主義統一戦線を結成し、赤軍を建設し革命政府を樹立しよう！ これは統一戦線の問題である。ポイントは次の2点である。①人民は、プロレタリア階級が、貧農半プロレタリアと同盟し、小商品生産の集団化を条件に中農小ブルジョア、都市小ブルジョア階級を引き付ける社会主義統一戦線に結集されなければならない。②赤軍と革命政府はこの統一戦線の機関である。

第六章 当面の戦術は正規の攻囲である

「われわれの『計画としての戦術』は、いますぐ空襲を呼びかけることを拒否して『敵の要塞の正規の攻囲』を組織するように要求すること。言いかえれば、常備軍を集め組織し動員することに全力をそそぐように要求することにある」（レーニン『なにをなすべきか』）。

今すぐに、いきなり、武装蜂起を闘うのではない。我々の当面する戦術は第一に日帝の支配ブルジョア階級独裁に対する正規の攻囲を組織し社会主義革命、プロレタリア階級独裁、暴力革命の政路線でプロレタリア階級を組織して、マルクス・レーニン主義党を建設することである。第二に武装蜂起へ至る革命戦争、つまり武装蜂起へ至る革命戦争、つまり持久戦を闘うことである。要するに、我々は当面、全国政治新聞『革命通信』を発行し、宣伝、煽動、組織化を遂行し、武装して闘う非合法のマルクス・レーニン主義党を建設することである。

我々は、次のようにレーニンが示した、革命情勢が端緒的に始まりつあると見ていている。（1）支配階級にとって、不変のかたちでは、

その支配を維持することが不可能になること。「上層」のあれこれの危機、支配階級の政治の危機が亀裂をつくりだし、それにそつて、被抑圧階級の不満と憤激が爆發すること。革命が到来するには通常、「下層」がこれまでどうりに生活することを『欲しない』というだけではたりない。さらに『上層』がこれまでどうりに生活することが『できなくなる』ということが必要である。（2）被抑圧階級の貧困と窮屈が普通以上に激化すること。（3）右の諸理由から、大衆の活動力がいちじるしくたかまる。大衆は『平和な』時期には、おとなしく搾取されるままになつていて、嵐の時代には、危機の環境全体と『上層』そのものとによつて、自主的な歴史的行動にひきいられる（『第二インタナショナルの崩壊』）。

日帝の支配ブルジョア階級独裁は、自民党政府の危機、議会制ブルジョア民主主義の危機が進行し、今まで通りやつていくことができなくなり、統治形態の天皇制ファシズムへの反動化が進行している。朝鮮革命の爆發が不可避であり、米帝、日帝の朝鮮侵略反革命戦争が不可避であることが、これを促進している。

人は第一に、朝鮮侵略反革命に反対し、戦争に反対する、反戦闘争、第二に、反動化に反対し、天皇制ファシズムに反対する民主主義闘争、第三に、国家独占資本主義の下での搾取、収奪、抑圧の強化に反対する経済闘争という、三大水路を通して大衆闘争を爆發させつつあり、議会主義、改良主義の社会党、「共産党」の下で今まで通りやつしていくことを欲しなくなつていて、議会主義が存在しない。我々は2つ方向から、このマルクス・レーニン主義党の建設を目指す。

第一の方向は、次のようにレーニンが示した、革命情勢に対応するマルクス・レーニン主義党の任務を我々自身が端緒的にではあれ、実行することである。それは三大任務である。

「革命的情勢が存在することを大衆のまえにあきらかにし、それの広さと深さを説明し、プロレタリアの革命的自覚と革命的決意をよびさまし、プロレタリアートをたすけて、革命的行動にうつらせ、この方向で活動するためには革命的情勢に応じた組織をつくりだすといふ任務がそれである。」（同）

我々の三大任務の第一は大衆闘争の三大水路に対応した革命的情勢を支持することである。①民主主義闘争の社会党の建設である。

②反戦闘争の中に朝鮮革命を支持する宣伝、煽動を持ち込まなければならない。朝鮮の自主的、平和的統一闘争、南朝鮮の反米、反日朴打倒の民族民主革命、在日朝鮮人の民主的民族的权利のための闘争を支持することである。③民主主義闘争の中に暴力革命、プロレタリア階級独裁の宣伝、煽動を持ち込まなければならない。天皇制ファシズムを打倒し、プロレタリア階級独裁を樹立すること、天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構を粉碎し、全人民の武装を実現する任务である。

任務の第二は、革命的闘争である。天皇制ファシズムの武装力をせん滅する武装闘争を闘うことである。主体的な力量からして、今すぐには、いきなり、権力中枢を攻撃する武装蜂起を闘うことはできない。しかし、マルクス・レーニン主義党は、天皇制ファシズムの反革命攻撃に對して、受動的、消極的に對応するのではなく、能動的、積極的に對応し武装闘争の契機とし、工場街、労働者街でのゲリラ戦を闘い、これから、持久戦として、武装蜂起へ至る、革命戦争を闘かねばならない。このようなゲリラ戦は今すぐに闘うのではないが、しかし、この数年間のうちに必ず闘わなければならない。だから、今すぐできる任務としてこの革命戦争のために、準備し、主体的な力量を強化することに集中しなければならないのである。

第三は、革命的組織である。職業革命家の組織を中心とする、中央集権制として、武装して闘う非合法の党組織を建設することである。職業革命家の組織を中心とすることと中央集権制とは今すぐには実行できるし、やらなければならない。この党組織を武装させ、合法の体制へ移して行くことは、今すぐにできないとしても、しかし、今から革命戦争の準備との關係で徐々にやらなければならぬ。

第五章 マルクス・レーニン主義の第三次
ブンドを建設しよう！

マルクス・レーニン主義の建設を目指す第二の方向は、マルクス・レーニン主義によるブンド系の統合、ブンド再建、第三次ブンド結成を実現することである。このためには編領論争を持ち込まなければならぬ。それを、我々の暫定編領であるスローガン¹（スローガン）²を基準としてやるつもりである。

ブンドは、編領の原則的部分³・思想路線については、基本的に、共産主義と労働運動の分離を反映す急進民主主義であった。だから、一方ではテロリズムとなり、他方では経済主義となつた。これは清算してマルクス・レーニン主義を獲得しなければならない。これがスローガン¹である。これが第三次ブンド結成の眼目である。

国際路線については、第二次ブンドのアジアの社会主義国、民族解放闘争に敵対するトロッキズムと結合して、日本の社会主義革命を推進する路線を基本的に継承すればいい。ただ一国社会主義と社会主義におけるプロレタリア階級独裁を否定する、トロッキズムと毛沢東思想を折衷して不十分さを克服しなければならない。

編領の実践的部分³・政治路線については、第一次ブンドが反米・反独占人民民主主義革命から社会主義革命への二段階革命である現代修正主義の「共産党」から訣別して確立した路線、つまり、日帝打倒・社会主義革命の路線を基本的に継承すればいい。ただ、米帝の支配と米帝追放の民族解放を見落し欠落させている不十分さを克服しなければならない。

同時にブンド系においては、戦術を一致させるために情勢認識を一致させることが必要である。第一に、国際情勢についてである。我々は「革命が主な傾向」とは見えない。インドシナ人民の勝利、米帝の没落、ソ連社帝の台頭によつて「革命と戦争の要素が増大」と見る。つまり、第三世界の民族解放闘争の拡大と、西欧・日本の社会主義革命の開始が不可避である、とともに、米ソの第三次大戦が不可避であると見る。第二に国内情勢についてである。我々は、日帝の支配⁴・ブルジョア階級独裁について、自民党政の危機、議会制ブルジョア民主主義の危機を見るだけではなく、天皇制の前面化と軍隊・警察・官僚機構の把大化、天皇制ファシズムへの反動化を見なければならないと考える。

第六章 当面するいくつかの問題に対する立場

第一に進行しつつある自民党政の危機に対してもどのような態度をとるのか？ 米帝との連合支配である安保体制の下での日帝の支配⁴・ブルジョア階級独裁の統治形態は今まで、象徴天皇制の下での議会制ブルジョア民主主義であつた。ブルジョア階級は議会で選出される自民党内閣を通じて執行権力・軍隊・警察・官僚機構を動かしてきた。しかし、今やこのことが不可能になりつある人民の闘争が激発し、小ブルジョア階級が自民党から離反し社会党、「共産党」がプロレタリア階級をつなぎとめることができなくなりつある。このことは見なければならない。だが、これだけでなく、次のことこそ見なければならない。そこでブルジョア階級は、天皇制を前面化し、軍隊・警察・官僚機構を把大化し、両者を結合し、執行権力を議会から独立させ、天皇を通じて動かそうとしている。統治形態を元首天皇制の下でのファシズムへ転化しつづある。そして、無力な議会で選出される内閣としては、社公民でも、社「共」でもさえも受け入れようとしている。

社会党、「共産党」は天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構、執行権力を残したまま、議会で多数を得、自民党に代つて内閣を組織しようとしているが、それは天皇制ファシズムを隠すイチヂクの裏である。「自民党政打倒」とは、実は「自民党内閣打倒」であり、この社「共」の議会主義の尻押しに通じるのである。

レーニンは『国家と革命』で「ブルジョア国家がプロレタリア国家へプロレタリアートの独裁と交替するには『死滅』によつては不可能であり、それは通常暴力革命によつてのみ可能である」と言いつつ、「暴力革命について、このようないまざにこのようない見解で大衆を系統的に教育する必要がマルクスとエンゲルスの学説全体の基礎になつてゐる」と言つてゐる。マルクスは『ルイ・ボナパルトのブリューメル18日』で「破壊力をことごとく執行権力に集中」することを教へてゐる。『フランスの内乱』で「労働者階級はできあいの国家機構をそのまま奪い取つて自分自身の目的のために動かすことできたい」と教え、「常備軍を廃止し、それを武装した人民ととりかえること」を教へてゐる。

社会主義革命では、プロレタリア階級、それと同盟した貧農⁵・半プロレタリア、それに指導され、小商品性産の集団化を承認した、中農⁶・小ブルジョアと都市小ブルジョア階級、これが人民である。暴力革命でブルジョア階級独裁の国家権力を武装した人民で構成して樹立するのである。だから、正しい、暴力革命のスローガンは「天皇制ファシズムを革命戦争で打ち破れ」である。

第2に、経済闘争、春闘に対する我々の方針はどうか？ レーニンが『させまる破局、それといかに闘うか』で言つてゐる次のことが参考になる。「ほんとうに革命的民主主義的な国家のもとでは、国家独占資本主義は、不可避的に、必然的に社会主義への一步、いな数歩を意味する。」

「なぜなら、社会主義は、国家資本主義的独占からつきの一歩をすすめたものにほかならないからである。」

「国家独占資本主義が社会主義のもとも完全な物質的準備であり、社会主義の入口であり、それと社会主義とよばれる一段とのあいだには、どんな中間の段もないよう歴史の段階の一段であるからである」。

日本資本主義の高度成長は破綻し、恐慌の後、長期の停滞が続いている。国家独占資本主義が強化され、搾取（賃金統制）、収奪（赤字財政の合理化）が強化されている。ここから、これに反対する労働者階級の経済闘争が爆発しつづある。これに対する我々のスローガンは国家独占資本主義から社会主義へ前進せよ！ である。つまり国家独占資本主義にあつては、ブルジョア階級独裁の国家が生産手段を握り、経済を統制し「労働者には（そして、いくぶんは農民にも）、軍事的苦役を、銀行家や資本家には楽園を作り出しているが、この国家権力を打倒し、プロレタリア階級独裁の国家権力に変えるのである。ブルジョア階級と結合した軍隊・警察・官僚機構を粉碎し、全人民の武装を実現し、武装した人民から成る國家権力が生産手段を握り、経済を統制するのである。そうしたら、社会主義である。

社会党、「共産党」のスローガンは「経済の民主化」である。これは、ブルジョア階級独裁の国家権力を打倒せず、この官僚機構による生産手段の掌握や経済の統制を促進するものであり、国家独占資本主義を強化するものである。

第3に朝鮮問題を中心とした戦争と革命の問題に対する立場はどうか。

当面する国際情勢の特徴は、インドシナ人民の民族解放闘争が勝利し、老朽の米帝国主義が没落し、新興のソ連社会帝國主義が台頭し、革命の要素が増大し、同時に戦争の要素が増大していることである。第三世界、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカの民族解放闘争の拡大、第二世界、西欧、日本の社会主義革命の開始、第一世界、米ソ二大帝国主義の第三次大戦、これらはいずれも不可避である。

「資本の権力を倒さなければ、国家権力が別の階級、すなわち、プロレタリアートに移らなければ、帝国主義戦争からぬけだすことはできない」（レーニン『わが国の革命におけるプロレタリアートの任務』）。

米・日本とソ連が帝國主義であり、社会帝國主義である限り、日帝が米帝を引つ張り込んでの朝鮮侵略反革命戦争と、ソ連社帝が掛け、米帝が応じ、日帝を引つ張り込んでの第三次帝國主義世界大戦はいずれも不可避である。朝鮮侵略反革命戦争と米ソの第三次大戦、この二つの帝國主義戦争から日本が抜け出すことができる唯一の道は、ブルジョア階級独裁の国家権力を打倒すること、国家権力をブルジョア階級から奪つてプロレタリア階級が握ること、統治階級をプロレタリア階級に変えることである。日帝打倒、ブルレタリア階級独裁、社会主義革命だけである。このための革命戦争だけである。この唯一の道をプロレタリア階級は突き進まなければならぬ。米日帝の朴政権を手先とした朝鮮侵略反革命に反対し、朝鮮人民の自主的、平和的統一闘争、南朝鮮人民の反米・反日・朴打倒、スローガンである。

ここ数年にわたる長期的な我々の任務は何か？

安保粉碎・日帝打倒・米帝追放・プロ独立・社会主義革命を目指し、マルクス・レーニン社会党を建設し、社会主義統一戦線を結成し、天皇制ファシズムを攻撃し、革命戦争で打ち破れ！ が我々のこれである。

△ 現代修正主義の「反独占人民民主主義革命路線を批判する。▽

「レーニン『帝国主義論』を学習して」

現代修正主義の「共産党」の現在の綱領は次のようになっている。「現在日本を基本的に支配しているのは、アメリカ帝国主義とそれに従属的に同盟している日本の独占資本である。わが国は、高度に発達した資本主義でありながら、アメリカ帝国主義になれば占領された事実上の従属国となっている。」「現在日本の当面する革命は、アメリカ帝国主義と日本の独占資本の支配一二つの敵に反対する新しい民主主義革命、人民の民主主義革命である。」レーニンの『帝国主義論』を学習して、この路線を批判したい。

★(1) 帝国主義はプロレタリア社会主義革命の前夜である

レーニンは「第一章、生産の集中と独占体」と「第二章、銀行とその新しい役割」の二章を「第三章、金融資本と金融寡頭制」でまず総括している。さらに「第四章、資本の輸出」、「第五章、資本家団体のあいだでの世界の分割」、「第六章、列強のあいだでの世界の分割」として続いている。そして、以上の六章全体を「第七章、資本主義の特殊の段階としての帝国主義」で総括している。レーニンは第七章で「純経済的概念」に限定した上で、帝国主義の「基本的標識」を次のように示している。「(1)生産と資本の集中が高度の発展段階に達して、経済生活で決定的な役割を演じている独占体をつくりだすまでは区別される資本輸出がとくに重要な意義をもつようになること。(2)銀行資本が産業資本と融合し、この『金融資本』を基礎として金融寡頭制がつくりだされたこと。(3)商品輸出と独占体と金融資本との支配が成立して、巨大な資本主義諸国による地球の全領域の分割が終った、そういう発展段階の資本主義である」。

そして、レーニンは、「第十章、帝国主義の歴史的地位」で、帝国主義を、①「独占資本主義」②「寄生的な資本主義あるいは腐朽しつつある資本主義」③「過渡的な資本主義」で、「もつと正確に言えば死滅しつつある資本主義」と規定している。①は第一～七章で、②は「第八章、資本主義の寄生性と腐朽」で説明されている。つまり①帝国主義は独占資本主義である。独占資本主義は、生産の社会化を高度に実現するが、取得、所有は依然として私的である。このため、生産手段を占有するブルジョア階級へのプロレタリア階級の

従属は一層強まり、階級対立は一層激しくなり、ブルジョア階級に対するプロレタリア階級の階級闘争は発展、爆発する。またの生産力と生産関係の矛盾が極限化し、生産関係は

生産力の発展に照應せず、矛盾し、生産力を破壊するようになる。だから、③独占資本主義は社会主義への過渡であり、帝国主義はブロレタリア階級の社会主義革命の前夜である。

★(2) 当面する日本革命は、日帝と米帝の連合

支配①安保体制に対する民族解放を含む社会主義革命、安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独・社会主義革命である!

米帝国主義の占領化では、日本のブルジョア階級は、基本的に国家権力を握ってはなく、完全に米帝に従属していた。日本の軍隊は解体され、

日本の警察・官僚機構は完全に米軍に従属していた。しかし、日米安保体制下では、日本のブルジョア階級は、基本的に国家権力を握り（ブルジョア階級独裁）、米帝に一定程度従属しているが、基本的には独立している。日本の軍隊は再建され、米軍に一定程度従属しているが、基本的には、日本のブルジョア階級が握り、動かしている。これとは別に、米軍が駐留し、基地を保有し、米帝の占領が部分的に継続している。敗戦直後の封建制の解体を延命の条件とし、米帝の朝鮮侵略反革命戦争の特需によって復興を開拓し、50年代に高度成長を実現し、敗戦直後、一定の規制を受けた独占資本と金融資本を復活させ強化した。

これらは、レーニンが示している帝国主義の経済的標識の(1)、(2)に当る。そして、日本資本主義は、60年代に、米帝のインドシナ侵略反革命戦争の特需も利用しつつ、引き続いて、以上激しくし深めるほうへ前進するか、それが

高度成長による独占資本と金融資本の強化を進めながら、資本輸出を開始し、国際独占資本への発展を実現し、日「韓」条約に基づく南朝鮮をはじめとして、アジアに対する植民地支配を再開した。これらは、レーニンが示した帝国主義の経済的標識の(3)、(4)、(5)に当

る。こうして、安保体制の下で日本資本主義は、帝国主義として復活し、発展してきた。

現在の日本の国家権力は、日米安保体制に基づく日本のブルジョア階級つまり日本帝国主義と米帝国主義の連合支配である（日帝の支配はブルジョア階級独裁）。当面する日本

革命は民族解放を含む一段階の社会主義革命である。プロレタリア階級は、貧農②半プロレタリアと同盟し、小商品生産の集団化を条件に中農③小ブルジョアと都市小ブルジョア

階級を引きつけて、社会主義統一戦線を結成し、安保体制を粉碎し、一方では日帝打倒の

プロレタリア階級独裁、社会主義革命を推進し、他方では、米帝迫害の民族解放を推進しなければならない。日帝と米帝が連合して支

配しているので、社会主義革命と民族解放が同時に進行するのである。

「共産党」は、安保体制下で、日本のブル

ジョア階級が基本的に国家権力を握り、日本

資本主義が帝国主義として復活したことを見定し、社会主義革命を放棄している（帝国主

義でなくとも、日本のブルジョア階級が基本

的に国家権力を握ったら、社会主義革命が基

本となる）。

★(3) 反独占の革命は人民民主主義革命ではなくプロレタリア社会主義革命である

新民主主義革命、人民民主主義革命とはプロレタリア階級が指導する民主主義革命である。

命の路線とは、反米反独占の革命は民主主義革命であり、これをプロレタリア階級が指導すれば人

民民主主義革命となる。しかし、日本独占資本は米帝の買弁資本、民族解放の対象ではない。反米の革命は民族解放するという路線である。反米の革命は民族解

放であり、プロレタリア階級が指導すれば人の命の路線とは、反米反独占の革命は民主主義革命であり、これをプロレタリア革命、社会主義革命を定めなが

く、基本的に独立した民族資本であるので、反独占の革命は、民主主義革命、従つて人民

本の軍隊は再建され、米軍に一定程度従属しているが、基本的には、日本のブルジョア階級が握り、動かしている。これとは別に、米軍が駐留し、基地を保有し、米帝の占領が部分的に継続している。敗戦直後の封建制の解体を延命の条件とし、米帝の朝鮮侵略反革命戦争の特需によって復興を開拓し、50年代に高

度成長を実現し、敗戦直後、一定の規制を受けた独占資本と金融資本を復活させ強化した。

これらは、レーニンが示している帝国主義の経済的標識の(1)、(2)に当る。そして、日本資本主義は、60年代に、米帝のインドシナ侵略反革命戦争の特需も利用しつつ、引き続いて、以上激しくし深めるほうへ前進するか、それ

が改良主義的に改変することが可能かどうか、とも鈍くするほうへ後退するか、という問題

が、帝国主義批判の根本問題である。帝国主

義の政治特質は、金融寡頭制の抑圧と自由競争の排除とに関連して、あらゆる面での反動

抗できなかつたばかりでなく、逆に実践のうえで、彼らと融合した、という点にある。

カウツキーと広範なカウツキー主義の国際的大な、そして経済的には根本から反動的な、

民主主義的反対派が現われている。そして、カウツキーが、小ブルジョア的な、改良主義

主義には、帝国主義に対する小ブルジョア潮流が、マルクス主義と絶縁したというの、

この反対派に對抗しようと心がけず、また対抗できなかつたばかりでなく、逆に実践のうえで、彼らと融合した、という点にある。

△△△